

西光寺だより

第一七三号 令和七年一月一日発行

新年あけましておめでとようございます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

二〇二五年、新しい年がはじまりました。

新たな年を迎え皆さんで元旦会のお勤めをいたしました。

すがすがしく凜と冷たい空気の中、響きわたるお念仏を聞きながら新年を迎える喜びと緊張感の中、過ごすことが出来ました。

昨年は、地震や自然災害があり大変な一年でありました。その一つの出来事が決して他人事ではなく、自分事として受け止められるところに慈しむという気持ちが生まれます。

どんな一年になるかはわかりませんが、日々をそのまま受け止めながら、どんな時でもどんなことが起きようとも常に阿弥陀さまがおそばにおられることを大切に思いたいです。

一年のはじめの行事である元旦会をこうして皆さんとお迎えさせていただく特別な時間と味わうことが出来ました。

私たちは先人様方のいのちの繋がりのおかげによりこうして今を生きていくことができます。その感謝をこうして手を合わせ、今年一年の歩みを進めていきたいと思えます。

本年も皆さまどうぞよろしくお願い申し上げます。



◆先月の報告◆

①十二月二日(月)〜三日(火) 京都西本願寺へ茨木東組念仏奉仕団に行ってまいりました。非常に天気がよく身近に親鸞聖人を感じながらの時間でありました。

私自身、毎年の茨木東組の行事であるこの念仏奉仕団は、地域の各寺院の報恩講も終わり、一年無事に過ごせましたとの報告を本山西本願寺の阿弥陀さまと開祖親鸞聖人にご報告させていただく大切な行事として受け止めております。

日々が特別な時間であり、無事に一年を過ごすことが出来たご報告をする、是非今年の念仏奉仕団も無事に過ごせましたとご報告できる一年にしたいものであります。

合掌





②十二月三十一日(火) 西光寺鐘楼にて除夜の鐘を撞きました。
多くのご門徒の皆さん、近隣の皆さんに来ていただきました。昼間は寒かったのですが、この時はだいぶ寒さも弱まり気持ちよく迎えることが出来ました。

今年の一年の感謝と反省を思い出しながら、鐘を撞く。年末にふさわしい行事であるとともに、年末に行くからこそその良さも感じられます。この一年があつたからこそ次の一年につながる事が出来ます。

どんな一年であつてもこの一年がないと次はないのですから。そう思うと毎年の除夜の鐘を撞きながら、一年一年を思いながら、繋がりに続いてきたこの命への思いが溢れてきます。

どうぞ皆さん、一年一年の積み重ねを次の一年につないでいただき、紡いでいきたいと思う時間でありました。ありがとうございました。



③一月一日(水) 西光寺本堂にて元旦会のお勤めをいたしました。少し遅れての始まり大変申し訳ありませんでした。
一年の始まりに西光寺でのご門徒さんとお勤め、身が引き締まる思いであります。お焼香もさせていただきました。

そして、昨年から西光寺では本山・津村別院、そして茨木東組でも行われている子育て支援・子ども若者ご縁づくりとして、地域の皆さまとのご縁を深める行事を西光寺で行っています。

寺こやや寺カフェなど地域の皆さまとご縁を深めております。

皆さまの財産である西光寺での活動に本来の寺院としてのつながりを思いながらご縁の中にあること、ご縁によって生かされていることを改めて思うことでもあります。



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>